

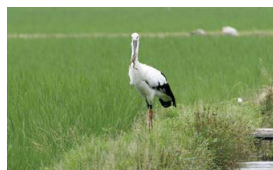
# 兵庫県農業共済組合 (NOSAIひょうご)

## 1. 兵庫県の紹介

兵庫県は、大都市から農山村、離島まで、さまざまな地域があり、北は日本海、南は瀬戸内海及び太平洋に続く紀伊水道に面し、中央部には中国山地が東西に横たわるなど変化に富んだ地形と様々な気候が存在することから、「日本の縮図」といわれています。瀬戸内海側は、降水量が少なく温暖で過ごし易い地域ですが、日本海側は曇雨が多く、冬季はシベリアの季節風を受けて降雪量が多い地域です。

また、固有の歴史や風土を有する摂津（神戸・阪神）、播磨、但馬、丹波、淡路の5つの地域で構成されていることから、「ひょうご五国」として兵庫の魅力を発信しています。

但馬地域では、コウノトリの野生復帰を支え環境に優しい「コウノトリを育むお米」を栽培しています。  
写真提供：豊岡市



このように多様な気候と風土を通して、夏には日本海や瀬戸内海などで海水浴やマリンスポーツが楽しめ、冬には但馬地域などでスキーが楽しめます。また、国宝姫路城や日本最古の温泉で豊臣秀吉も愛した有馬温泉を始め、全国的に有名な城崎温泉、湯村温泉などがあり、多くの観光客が訪れています。

多様な地域性を生かした様々な祭りなどの伝統文化も受け継がれています。特に、伝統芸能である淡路人形浄瑠璃や、女性ばかりのレビューである宝塚歌劇をはじめ、灘のけんか祭り、十日戎などの日本の祭りのほか、中国の旧正月を祝う南京町の春節祭なども楽しめます。



## 2. 兵庫県の農林水産業

本県の農業産出額は1,509億円（全国22位）で、近畿6府県の32%を占めており、京阪神都市圏の食料生産基地として重要な地位にあります。産出額の構成比では、米（32%）、野菜（23%）、畜産（38%）で全体の約93%を占めており、全国と比べると米の比率が高くなっています。総農家数は67,124戸で、そのうち、自給的農家は約45%を占めています。また、基

幹的農業従事者の平均年齢は70.6歳と全国平均よりも高く、高齢化が進んでいます。耕地面積は、72,800haで、そのうち水田面積率は92%と極めて高い割合ですが、1戸当たりの経営耕地面積は1.2haで、全国平均の半分以下であり、小規模な経営が大半を占めています。

また、降水量の少ない瀬戸内海地域や淡路地域を中心に、ため池が数多く築造されており、



山田錦

播磨地域・摂津地域を中心に栽培されている山田錦の玄米(左)と精米です。山田錦は酒米に求められる①大粒である②心白が鮮明に中央にある③タンパク質含量が少ないを全て備えています。



丹波黒

丹波地域を中心に古くから栽培されている丹波黒の特長は、粒の大きさです。一般の大豆の2～3倍と世界でも類を見ない大粒で、お正月の煮豆に重宝されています。



タマネギ

淡路地域を中心に栽培されているタマネギの生産量は、全国第3位です。



但馬牛

兵庫県産但馬牛のエリートである神戸ビーフは世界の舌を魅了しており、県内で生産された子牛は、優秀な資質が評価され日本各地で活躍しています。

農業用水の約半分はため池に依存しています。

このような経営規模ではありますが、それぞれの地域の気候・風土に根ざした多彩な農林水産業が営まれており、生産量全国1位の

山田錦（酒米）、丹波黒（黒大豆）、シラスをはじめ、タマネギ、いちじく、カーネーション、ノリ養殖など生産量で全国上位を占める農林水産物も多くあります。

### 3. 兵庫県農業共済組合の概要（2022年8月1日現在）

- 所在地：兵庫県神戸市中央区下山手通4丁目15-3
- 電話番号：078-332-7154（代表）
- 理事：9名
- 監事：3名
- 総代：86名
- 損害評価会委員：568名
- 家畜診療所運営委員：4名
- 職員：254名



NOSAI ひょうご本所

### 4. 兵庫県農業共済組合の活動

当組合で実施運営している農業保険制度は国の保険制度で、自然災害による損失を補てんする「農業共済制度」と農業者自身の収入を補てんする「収入保険制度」があります。

本県では、半世紀以上に亘って市町行政が農業共済事業を実施してきましたが、業務の合理化・効率化を目指して、2020年1月29日に県域を一つのエリアとした新たな組合を設立し、2020年4月1日に特定組合として事業を開始し、現在3年目を迎えています。

組合設立にあたっては、それまでの26の公営組合等で運営されていたときの組合員と事務所との距離を大きく変えず、農業者サービスを低下させないため、一部の地域のみを統合し、本所、19事務所、7診療所の体制で運営しています。

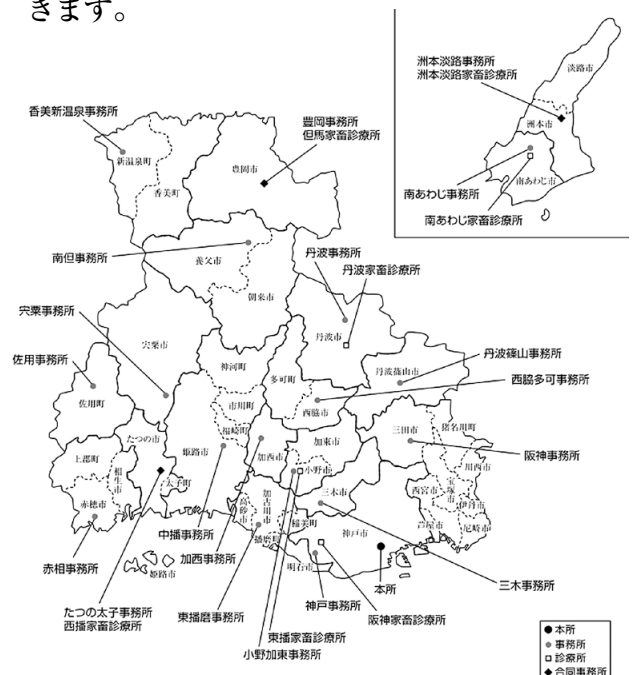
設立当初のマンパワーを補うため、各市町から職員の派遣を求め、各地域の特性を生かした事業推進、損害防止活動に取り組んでいます。

本県は、自然災害の被害が比較的少ない県ですが、数年に1度勢力の強い台風により甚大な被害を受けます。また、最近では、コロナ禍と原材料の高騰が農業経営にも大きな影響を与えています。

こうした情勢の変化の中で、リスクを抱える農業者に「備えあれば憂いなし」の農業生産体制を構築していただくため、積極的な加入推進活動を展開しています。

また、組織体制の強化を図るため、将来を見据えた機構改革の検討も始めています。

今後とも、農業経営のセーフティネットとしての役割を果たしていくため、役職員一丸となって、農業保険制度の推進に取り組んでいきます。



NOSAI ひょうご 管内図